



弁護士

田中 秀雄



● 10年目の親子鷹一免許皆伝

息子との共同の仕事も10年目を迎えた。独立したときはまさか10年も一緒にやれるとは思っていなかった。感無量である。

10年目ともなるとお互いに忙しいので、ともに法廷に立つのは稀だが、机を並べているので頻りに相談はしている。

私自身は今もたくさんの事件を担当しているし、あちこち痛いところはあっても頭は衰えていないのでまだまだやれるとは思っているが、息子に教えてやれることはもう何もない。私が言うのはおこがましいが、いわば免許皆伝である。幸い勉強は好きなようだから取得した得意分野に新しい分野を開拓していったらよいと思っている。

私と息子の違いは、野球で例えれば、私は速球投手で、直球でドンドン勝負していくタイプだが、息子は精密なコントロールで勝負するタイプである。私は、相手の弁護士にも依頼者にも思っていることはポンポン言うが、息子は慎重である。これは性格なので、どちらが良いとも悪いとも言えない。勿論私も場を見て発言するので控えるべき時は控えるし、息子も言うべき時はちゃんとやっているようである。息子の誠実な人柄を好んで依頼者も増えていっているようで、ありがたいことである。

● 韓国ドラマ再び

韓国ドラマ三昧はまだ続いている。ラブストーリーも名作はほとんど観てしまったので、時代劇や刑事物にまで観る範囲を広げている。朝鮮王朝時代などの韓国の時代劇は食わず嫌いでこれまでは全く観ていなかったが、観始めたら面白くてやみつきになった。特に「奇皇后」というハ・ジウォン主演のドラマは14世紀

中期、高麗の時代に、元への「貢女」という貢ぎ物にされた最下層の女性が皇后にまで登りつめるまでの実在の人物のフィクションではあるが、波瀾万丈の人生を描いたものもある。ドラマは1時間物で51



話の大河ドラマであったが、あまりに面白くて10日ほどで一気に観てしまった。韓国のドラマ、特に時代劇は、衣装とか王宮とか実に金を掛けて作られているし、脚本もよく練られていて感心する。以前は日本の連続ドラマをよく観ていたが、韓国ドラマを観た後では、日本の多くの連続ドラマが脚本もお金の掛け方もいいかげんに作られているように思えてきてほとんど観なくなった。

● 巨人惨敗

昨シーズン巨人は惨敗だった。61勝62敗20引き分け。負け越しは8年ぶりだ。一時は阪神と優勝争いをしていたが、

10連敗してあつという間に3位に転落してしまった。こんな弱い巨人を見たのは久しぶりだ。ヤクルトやオリックスのように長期的に若手を育てようとせず、FAやトレードでその場のぎの補強をして取りあえず勝てばよいという巨人流のやり方が限界にきたのだろう。昨年のヤクルトとオリックスの日本シリーズは面白かった。どちらも若手がイキイキと活躍していてさすがセ・リーグとパ・リーグの優勝チームだと思った。巨人もいつの日か、菅野や丸や坂本らベテランに頼らない若手が存分に活躍するチームになってほしい。原監督は有能ではあるが、若手を育てようという気がない。辞めてほしいが継続したので巨人が変わるのは無理かな。

● コロナの収束

新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長は、令和3年9月15日の衆院厚生労働委員会の閉会中審査で新型コロナの収束時期について「ワクチンを頑張って接種してもゼロにはできないので、当分闘いを続けていく必要がある。ワクチンや治療薬がどこにでもあるインフルエンザと同じように、社会の不安感がなくなるには、2、3年かかるのではないか」との見通しを示した。

ワクチンが6、7割の国民に行き渡ればコロナは収束に向かうのではないかと甘い見通ししか持っていなかったのが、専門家にはっきりこう言われると気が滅入る。令和3年11月末には新規感染者も極端に減ってきているが、韓国やドイツなどではいったん減った新規感染者が急増している。また、新たな変異種オミクロン株まで国内に入ってきた。これから寒くなれば、第6波がやってくるのは必至だろう。それでもやまない雨はない、明けない夜はないと思っている。

● 退職代行

我が事務所は2019年から、「退職代行」を事業として行っている。年間数件だが、依頼を受けて勤務先と退職に関するやり取りをしている。退職するならわざわざ弁護士に頼まなくても自分で言えばよいと思うかもしれないが、様々な事情から自分で言えない、言いづらいという理由で弁護士に頼みに来るのである。ある意味、今のドライな世相を反映している。

費用は正社員5万5000円、パート・アルバイト3万3000円である。これ以外に、未払賃金・残業代などを取り戻した時はこの額の20%+消費税が報酬となる。退職代行サービスを行う会社が一時流行していたが、「絆」にいられた依頼者に聞くと、電話や手紙やメールで勤務先に退職の通知を出して終わり、後の諸々の手続きは本人に丸投げだそうである。退職した後も結構煩雑な手続きがあるのに、これでは無責任である。

弁護士から内容証明を出すと、会社も退職の意思が固いと見てあきらめるのだろう、今まで依頼を受けた事件で勤務先とトラブルになったことはない。

我が事務所のウリはアフターサービスが充実していることである。通知後の会社との交渉や会社への保険証などの返還、会社から貰わなければならない源泉徴収票の受領なども行う。比較的安い費用でこれだけのサービスを行うので依頼者からは好評をいただいている。

